

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会
周波数管理・作業計画委員会第3回会合議事概要

1 開催日時

平成 25 年 4 月 9 日（火） 15 : 00～16 : 40

2 場所

合同庁舎 2 号館低層棟 共用会議室 4

3 出席者（敬称略）

・ 専門委員 :

小林 哲（主査）、阿部 宗男、岩間 美樹、小川 博世、田村 知子、西田 幸博、橋本 明、正村 達郎、矢野 由紀子、吉田 英邦

・ 関係者 :

井上 浩樹、柿木 誠二、河野 健司、高田 仁、中川 裕康、中村 隆治、水池 健、宮寺 好男、金子 雅彦、高尾 浩平、三留 隆宏、山本 勝美、松本 孝純、塚本 尚樹、内野 政治、博多 宣雄、平野 知、礪 琢己

・ 事務局 :

（国際周波数政策室）山口室長、遠藤補佐、奥川係長

4 議事

1 RAG 会合（2012 年 6 月）の結果について

2 RAG 会合への対応について

(1) 対処方針（案）の審議

(2) 提出予定日本寄与文書（案）の審議

(3) 外国入力文書に関する審議

3 その他

5 議事概要

議事に先立って主査より本会議では、周波数管理・作業計画委員会の構成員だけでなく、関係者にも発言を認める旨の発言があった。

事務局より、差し替えになった資料（参考資料 2）については、席上配布したこと及び会議終了後に電子データにて関係者に展開することが周知された。

(1) 前回議事概要

主査より、資料 3-1 の前回委員会の議事概要について、コメントがある場合は 4 月 16 日（火）までに事務局に連絡することとされた。また、SG1 への対処を議論する次回の委員会でも確認の場を設けることが周知された。

(2) 前回会合報告及び RAG 会合の概要について

資料 3-2 の 2011 年 6 月に開催された RAG 会合報告及び資料 3-3 の 2013 年 5 月に開催される RAG 会合の概要について事務局より報告が行われた。

(3) RAG 会合への対処について

RAG 会合の対処方針案について、資料 3-4 に基づき事務局より説明が行われた。その後、以下のとおり質疑が行われた。

□ ITU-R と他セクター (ITU-T、ITU-D) との調整について

(専門委員) 既に ITU-T ではラポーターグループの設置が可能となっており、ITU-T の SG9 が ITU-R の SG6 に対して共同ラポーターグループ設置の提案をしている。ITU-R 内でラポーターグループの設置が可能となる前に、実効的に共同グループの活動が始まる可能性がある点を情報として留意すべき。

(専門委員) ITU-T や ITU-R の本件に関連する活動は徐々に進んでいる点を踏まえ、対処方針の「…前回の RAG 会合から本議論に関する状況に特段の変化が無い点…」の部分の書きぶりを変更すべき。

(専門委員) 新たなラポーターグループの設置について日本として積極的に主張することはないか。

(事務局) 次の 5 つの分野において、ラポーターグループ設置の可能性があるものと考えている。1 つ目は、ITU-T 及び ITU-D でも既に立ち上がっている、ディザスターリリーフ。2 つ目は、ITU-T も関連する分野である PLC。3 つ目は WPT について、ITU-T SG5 にて無線防護関係を議論しているグループと共同研究する余地がある。4 つ目は、地デジプランニングの展開について。5 つ目は、ITS の展開を ITU-D と共に検討出来るのではないか。

□ SG 関連勧告のデータベース (DB) の見直しについて

(専門委員) ITU-R として、DB を作成するという一定の結論は出ていることを踏まえ、DB 作成を支持する旨の態度決定は今さらいらぬ。RAG で行われる DB のデモンストレーションを踏まえ、RAG から各 SG からの意見等を考慮して BR に対して適切な助言を行うよう働きかける対処とすべき。

(専門委員) 以上の意見を踏まえ、「前回の会合で DB 作成の方向性が定まっていることを踏まえ、RAG が適切な助言を行うように対処する。」という趣旨に修正してほしい。また、「SG の作業方法の見直し」というタイトルは誤りではないものの分かり難い。「勧告のデータベース作成」と修正するのがよい。

(事務局) 了解。

□ ITU-R 戦略計画及び運用計画について

(専門委員) 戦略計画と運営計画の両方が議論されるのであれば、対処方針のタイトルを「1. 戦略計画及び運用計画」としたほうが良い。対処方針については、ITU-R を「規制の中心」と表現しているが、これには偏りがあるた

め変更をすべき。

(事務局) 了解。

□ BR 情報システムの再構築について

(専門委員) 本議題は ITU-R の情報システムではなく、BR の情報システムについての議題であるので、それが明確に分かるように修正すべき。

(事務局) 了解。

□ ITU-R での適合性評価及び相互運用の考え方

(専門委員) C&I に関する過度な規制は装置製造側にとっては負担となるものであり、また詳細規制の作成にも多大の労力を要するという点を踏まえ、柔軟に対処していただきたい。

(事務局) 了解。

□ その他全般について

(専門委員) RAG は、ITU-R の組織の中において、SG 及び CPM までの活動のための議論をする場であるが、近年は BR の仕事の効率化を主眼に置いた議論も行っているようであり、RRB との役割分担が曖昧になっている。RRB と RAG の役割を明確にする必要があると感じている。

(専門委員) 2007 年以前の SG 再編前は SG に係る議論が活発だった。また SG 作業方法を規定している ITU-R 決議 1 の見直しが図られ当面の問題は解決し RAG 内の議論は落ち着きを見せた。現在議論になるものは、ITU の他セクターとの連携をどうするかという点であるが、引き続き関連 SG・WP 間の連絡を密にすることで対処していきたい。

(専門委員) 本委員会は、対処方針を決定するために年 1 回開かれているのが現状である。諸事情があって報告のために委員会を開催することは難しいことは理解するので、事務局への提案として、SG1 及び RAG 会合終了後、報告書を展開の上、その後 1 年間の日本の活動の方向性を関係者に示すことで、議論をしやすい環境を作ってほしい。また、寄与文書や対処に対する意見の募集を国内会合の 1 カ月前には行ってほしい。

(事務局) 了解。

(4) 提出予定日本寄与文書(案)の審議

資料 3-5 に基づき事務局より日本寄与文書の入力予定がない旨説明が行われ、了承された。

(5) 外国入力文書に関する審議

(事務局) Director report に記載されている内容で、議論になりそうな事項を次のとおり考えている。1 つ目は、衛星への干渉問題について。BR は、干渉の

事実を担保するために、観測をサポートする機関として ICAO 等の機関と協力体制の構築を進めている。このことについて、日本はどのような方針をとるべきか、意見があれば出してほしい。2 つ目は、情報システムの再構築について。情報システムの再構築は、現在 Phase3 の段階まで来ている。今まで日本が寄与しているが、引き続き日本が積極的に寄与すべきか否か、意見があれば出してほしい。3 つ目は、UNIDROIT について。現在、国連で宇宙物体を管理する機関を定めることを検討しており、ITU が管理団体として立候補するようである。現状、ITU は宇宙物体の全てを管理しているわけではなく、また、実際に管理機関になるとコスト増が想定される。コスト増を懸念する米国を中心とする国々は反対しているが、日本としてはどのように対処すべきか、意見があれば出してほしい。

(専門委員) 衛星への干渉問題について、実際に干渉が生じているか否かの確証が得られない点が問題となっている。資金の問題はあるが、正しく干渉を管理することを進めるべきである。具体的には、観測の範囲を効果的に拡大するために、ICAO 等の他組織と協力体制を構築してすべき。情報システムについては、セキュリティーの信頼性を高める等の活動が行われているものにすぎず、日本として賛成や反対といった積極的なスタンスをとるようなものではないと考える。

(専門委員) 衛星への干渉問題について、現状、証拠がないことが問題の解決を阻害しているという事実があるならば、積極的に問題の解決に向けた対応を進めていくべき。ただし、干渉問題は技術的な議論だけでは完結しないことが多いことから、RRB が担当すべき問題なのではないか。また、本件は予算の配分も絡むので、あるいは理事会で扱うべき問題なのかもしれない。いずれにしても、RAG でどこまで議論すべきか疑問である。

(専門委員) 今回の会合には日本寄与文書を入力しないこと、今後提出される外国寄与文書については従来のおりメール審議で良いことを確認。本日の議論を踏まえ、対処方針を若干の修正の上、関係者に展開の後、確定としたい。

(6) その他

事務局から、2013 年 3 月に開催された第 62 回無線通信規則委員会 (RRB) の結果について情報提供が行われた。

□ 全体を通しての意見

(専門委員) RAG の対応を検討する本委員会でもどこまで議論すべきかは議論が残

るが、Director report のなかには、RAG の所掌を超える話が出てきている。それらを幅広く議論するためにも、RAG 会合の結果について、まとまった後に展開して欲しい。

(事務局) 了解。